

医療最前線 — 宮崎県における救急医療の「最強かつ最後の砦」—

本院救急部は重症救急患者の専門治療施設として平成2年に開設され、宮崎県の救急医療の発展に邁進^{まんしん}してきました。平成20年度からは救急部の専従医師を大幅に増やし、あらゆる救急患者を24時間対応で受け入れる県内最大規模の救急医療施設になっています。また、関連する診療科や医学部の基礎講座等の支援を得て、医療レベルにおいても最高水準の救急医療を提供する医療施設に発展しています。

救急部は開設当初からヘリコプターを活用した広域の救急患者搬送システムの確立を最重要課題として取り組んできました。平成12年度には大型ヘリコプターが夜間も離発着できるヘリポートを整備し、宮崎県全域と隣県の一部を含む広域の医療機関からの重症救急患者の転送要請にも積極的にこたえています。また、海上保安庁等と連携し、日向灘を航行する船舶上での救急活動（洋上救急）にも力をいれています。

災害医療については、これまで宮崎県の総合防災訓練や日本赤十字社宮崎県支部が主催する災害救護訓練等に積極的に参加してきました。また、平成15年度からは宮崎県の委託を受けて、毎年、県内の災害拠点病院等の職員を対象とした宮崎県災害医療従事者研修会を実施し、宮崎県の災害医療のレベルアップに努めてきました。こうした災害訓練や研修活動に加えて、災害医療の専門的な訓練をうけた災害派遣医療チーム（宮崎DMAT）を編成し、災害発生現場に医療チームを派遣する体制も整備しています。1チームは5名で構成されており、現在2チームが活動中です。

本院救急部は宮崎県における救急医療の「最強かつ最後の砦」として地域社会に貢献するとともに救急医学の教育・研究を通じて重症救急患者の救命と傷病による苦しみの軽減をめざしています。

救急部 教授 寺井 親則



(海上保安庁提供)



洋上救急の実際

海上保安庁（ヘリコプター）が日向灘沖で操業中の漁船乗組員を救助し（上）、大学のヘリポートに搬送（下）した。



医師、看護師等からなる宮崎DMAT隊員

救急部看護師の取り組み

手術部副看護師長 上原美奈子
集中治療部副看護師長 永友 廣美

救急部は、外来の患者さんがすぐ受診できるように1階の時間外出入り口のすぐ横にあります。救急部を受診される患者さんは、重症度が高く、意識消失、交通外傷、心肺停止、熱傷、骨折、胸痛、腹痛などを訴え救急車で来院されることもありますし、病院周辺から来院される患者さんもおられます。

救急部を担当するのは、手術部・集中治療部の看護師です。私たちは、通常はそれぞれの部署で勤務していますが、救急部に患者さんが来院された際には、救急部へ駆けつけ救急部担当医師と共に、患者さんの対応に当たっています。患者さんの症状に応じて、救急部担当医師の診察だけではなく、専門の医師の診察も受けていただいています。どんな緊急時にも対応できるように、救急部には緊急処置用のたくさんの器材や、薬品が備えてあります。私たちは、毎日それらの点検を欠かさず行っています。また、専門医師による学習会を開き、医師と連携した治療、看護を患者さんに提供できるように技術トレーニングも行っています。

救急部を受診される患者さんは、急に状態が悪くなって来院されますので、患者さんはもちろん、ご家族の方々もいろいろな心配事、不安なことを抱えておられると思います。私たちは、診察中・処置中は必ず患者さんのそばにいて少しでも安心して、診察・治療を受けていただけるよう努力しています。

これからも、私たち救急部担当の看護師は、患者さんに安心して診察・治療を受けていただけるよう、患者さん、ご家族の方々の身になって心のこもった看護を提供していきたいと思えます。



救急部の診察室の様子

材料部 (Clinical Supplies) の紹介

材料部看護師長 長友久美子

病院再整備により新中央診療棟が増築となり、平成19年12月に新中央診療棟の1階へ移設し、平成20年1月から新しい施設での材料部業務が稼動しました。

材料部では、従来の病棟及び外来部門の医療器材に加えて手術部器材の洗浄・滅菌物の取り扱いを開始し、手術部と連携しながら安全な器材の提供を行っています。

材料部 作業風景

〈洗浄作業〉

使用済み器材の回収は、蓋付きコンテナを使用して汚染物質の飛散防止対策をとっています。また、曝露防止のための个人防护具を着用し、作業を行っています。材質や汚染の度合いに応じて、93℃10分または73℃5分等の洗浄行程を有するウォッシュャーディスインフェクター（全自動超音波洗浄装置）やコンテナ洗浄機等を使用し、洗浄機で洗浄できない器材は、手洗い洗浄を行っています。



全自動超音波洗浄装置



〈滅菌作業〉

洗浄済みの器材は汚れや破損、磨耗はないかなどの点検を行い、滅菌バッグや不織布で包装し、材質に応じて高圧蒸気滅菌機、エチレンオキシドガス滅菌機、低温プラズマ滅菌機で滅菌を行います。手術器材のセット組はメニュー表に沿って確認し、専用の滅菌コンテナに入れて滅菌します。滅菌工程管理として、機械的制御の監視記録、化学的インジケータや生物学的インジケータを用いて日常的に管理し、無菌性を保証しています。

〈滅菌物払い出し準備〉

滅菌物専用カートで清潔な状態を保持して搬送をしています。



今年度は、平成22年5月からの新外来棟稼働に向けて、外来部門の取り扱い器材の量や回収・供給の搬送に使用しているコンテナ等の調査を行い、新外来棟での使用済み器材や滅菌物の保管をふまえた搬送システムについて検討中です。

今後も医療の後方サービス部門として、安全な医療器材の提供業務を行っていきたいと思います。

女性外来（女性いきいき外来）が始まりました！

産科婦人科 外来医長 山口 昌俊

女性いきいき外来は、性差医学の外来です。小児が大人のミニチュアではないように、男性と女性は同一ではありません。男性と女性の差を考慮しながら治療する外来が女性いきいき外来で、一般的に言われているような女性医師が行う外来ではありません。

性差医学といっても、具体的にどのような内容でしょうか。我々は4つの柱を掲げています。それは、1) 若年の女性で、月経異常や月経困難症（生理痛）などを対象とする思春期外来 2) 避妊法としてピルを使ってみたいのだけど、どこに相談すればよいかわからないという女性のためのピル外来 3) 更年期障害といわれて、「年のせいだ、しょうがない。」と思っていたのだけど、症状が良くなって困っている女性のための更年期外来と 4) 色々な症状があって、困っているのだけど、お薬を飲むのは心配だ。漢方薬でよくなるかと思っている女性のための女性漢方外来です。

このような女性の悩みに対応するため、一人1時間の予約枠で産婦人科医師と看護師がプライバシーに配慮しながら心のケアを含め、対応します。ですから、完全予約制で診療することにしております。女性外来だからといって、全ての病気の診断や治療ができるわけではありませんから、来院されたら、まずお話を聞いて、婦人科以外の科が専門だと判断した場合は、専門と考えられる科をご紹介することがあります。婦人科で診察するのが適切だと判断した場合は、通常の婦人科診察を行った後で、治療方針を決定し、治療を開始します。必要に応じて看護スタッフと面談していただくようにいたしますので、「悩みがあるんだけど、医師には言いにくい。」とか「こんなことを聞いたら叱られるんじゃないだろうか。」などと思われる方も、気兼ねなく受診してください。

● **診療時間** 毎週金曜日 午後1時から(完全予約制です)

● 診療申込み

総合予約室 受付時間 月～金(祝祭日除く)
午前8時30分～午後5時
電話番号 (0985)85-1225

● お問い合わせ

産科婦人科 外来 受付時間 月曜・水曜・金曜(祝祭日除く)
午後1時～3時
電話番号 (0985)85-9332

「臨床技術トレーニングセンター」を設置

本学は、医学部の学生教育や研修医・新人看護師の卒後教育のため、救急蘇生や基本手技等のトレーニングを行う各種シミュレータや視聴覚教材等を整備した「臨床技術トレーニングセンター」を設置し、4月から運用を開始しました。

同センターは、医学部医学科の学生教育に使用していたシミュレータに加えて、研修医や新人看護師の卒後教育及び3年目以降の専門医養成のため、救急蘇生関連・基本手技・専門手技シミュレータや視聴覚教材等を新たに整備したものです。

これにより、救急蘇生や基本手技・専門手技などのトレーニングを繰り返し何度も行うことができ、医療スキルの向上が図られ、安全性の高い医療の確保がより可能となりました。

今後は、地域の医師・看護師の生涯教育や、一般住民対象の救急蘇生講習会、高校生対象の体験実習など広く一般へ開放することも予定しており、大学という施設を共有した新たな取り組みをスタートさせることとしています。



本学医学部が開設した
「臨床技術トレーニングセンター」

臨床実習認定書授与式を挙行

本学は4月1日、清武キャンパス（医学部）において、平成21年度医学科5年生を対象に「臨床実習認定書授与式」を執り行いました。

この授与式は、社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構により平成17年から正式実施されている全国共通の客観的臨床能力試験（OSCEとCBT）に合格した新5年生へ臨床実習認定書を授与することで医学実習生としての自覚を持って臨床の現場へ臨んでもらうことを目的として、今年度初めて行ったものであります。

5年生へ進級する93名はスーツに身を包み、緊張した面持ちで一人一人池ノ上医学部長から認定書を受け取った後、学生代表が「それぞれの目指す理想の医師像に近づけるように『生涯勉強』の精神を忘れず、日々成長していくことを誓う。」と宣誓を行いました。

また、池ノ上医学部長が、実習を行う上で医学生に望む姿勢について話をされ、その話を聞くうちに学生の顔も引き締まってきました。

今回認定書を受け取った学生は、4月6日から1年間、医学科実習生章を胸に付け、本院や院外の協力病院での実習に臨むこととなります。



病院からのお知らせ

再診の予約変更の連絡先が変わりました

平成21年4月1日から、**全ての診療科**の再診の予約変更は、**総合予約室**で受け付けます。

総合予約室

- 受付時間 月～金曜日（祝祭日除く）
午前8時30分～午後5時
- 電話番号 (0985) 85 - 1225

本院の理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

患者さんの権利

～本院は患者さんの権利を守ります～

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受ける事ができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

編集事務

宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携センター

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200 電話(0985)85-9165